

「恵那峡・明知鉄道 & 南木曾の旅」（岐阜県・長野県）

2 日 目 1 0 月 3 1 日（月）



朝6時、宿の窓から見た霧の海、快晴の予感です。

朝食後、その谷底「恵那峡」に降りてボートで巡ります。恵那峡は木曾川を大井ダムで堰き止めてできた人造湖です。

1924年、実業家福沢桃介が、日本で最初のこの大規模発電用ダムを築きました。木曾川の電源開発には、福沢桃介という名前が必ず登場し、私たちはこの後も「電力王」桃介に出会う事になります。

こんな格好良いボートで30分間の周遊です。まだ紅葉には間があるものの、両岸にそびえる奇怪な形の巨岩に目を奪われます。

この岩は名付けて「品の字岩」漢字の「品」にそっくりです。



さて、バスに乗り木曾川をさかのぼること1時間。長野県南木曾（なぎそ）町に入りました。この木曾川に設けられた読書（よみかき）発電所。上流から引いた水を、一気に落として発電機を回します。これも福沢桃介の事業の一つです。1797万円の資金を投じ、2年の工期で、大正12年に完成させました。



先程の大井ダムも前後して、矢継ぎ早に工事が進められます。流域に次々と発電所を作る電源開発。

「木曾川を離れて福沢なく、福沢を離れて木曾川の開発なし」という言葉が残されています。

慶応4年に生まれ、昭和13年に亡くなるまでに、桃介が経営に関わった会社は100に及ぶそうです。因みに桃介は、慶応義塾在学中に福沢諭吉に認められ、次女・房と結婚し、婿養子になった人です。

南木曾町の木曾川には、桃介の名前の付いた橋があります。読書発電所の資材運搬のために架け、のち地域の人々の生活の橋となった「桃介橋」です。今日、発電所も橋も、国の重要文化財に指定されています。その橋のたもとで、全員写真です。



ここで、また悠々組と健脚組に分かれて歩きます。

+ + +

この橋のすぐそばに、桃介が開発工事の間住んで居た別荘が、今も福沢桃介会館として残っています。悠々組はこちらを訪ねました。建物はまことにモダンです。

内部にはマントルピースも備えた本格的な洋風建築。実はここに桃介は、日本で最初の女優として有名な川上貞奴を伴って来ていたのです。貞奴が列車で駅に降り立つ度に、一目見ようと、黒山の人だかりが出来たそうな。(´_`) 案内の



ご婦人の説明は懇切丁寧、立て板に水。・・みな聞き惚れて大満足。危うく健脚組との合流に遅れる所でした。悠々組は、ここからバスで妻籠（つまご）まで移動します。

+ + + +



一方、健脚組は南木曾から歩き始めました。南木曾は中山道の三留野（みどの）宿に当たり、一つ南の妻籠宿まで、およそ4 km、1時間程の燦歩です。

多少のアップダウンはあるものの、秋の中山道はまことにのどかでした。

正午には、妻籠宿の入り口の高札場に到着。



昼食は銘々でという事で、私は「お焼き」（野沢菜と切り干し大根）を懐かしく食し、その後、誘われて「五平餅」も美味しくいただきました。



昼食後、全員集合して、一路大阪へ。快晴に恵まれた2日間の燦歩でした。

* * * *

毎度の蛇足、失礼します。

蛇足 その1

岩村の街中にある日本酒の蔵元の銘柄は「女城主」。時あたかもハロウィーン、家で待つ女城主様に土産に買った会員も居られたようです。でも、女城主様がこれで満足されたかどうかは、聞いておりません。



蛇足 その2

女城主と呼ばれるのは、戦国時代の城主遠山景任の夫人で、織田信長の叔母に当たるおつやの方です。元龜3年（1572）夫景任が亡くなった後、信長の子御坊丸が養子に入ります。織田信長としては、そこまで岩村に肩入れしていた訳でしょう。御坊丸は信長の5男とも4男ともいわれ、年齢は分かりませんが未だ幼少で、おつやの方が事実上女城主として采配を振るったという事のようにです。所がその機に乗じて、武田方の武将秋山信友が、未亡人おつやの方を妻として城を乗っ取り、御坊丸は人質として甲府に送られます。裏切られた形の信長は、天正3年（1575）長篠合戦で武田方を破った後、嫡男信忠に岩村城を攻めさせ、秋山信友を降伏させます。岩村城の落城です。

この後、おつやの方はどうなったか？

①織田信長の伝記「信長公記」では、詫びに来た秋山信友ら武将3名をだまして捕らえ、岐阜に連行し、長良川の川原で磔にしたと記しています。ここにはおつやの方の事は全く記されていません。

②武田方の記録「甲陽軍鑑」では、だまされ磔にされたのは秋山信友ら2名。そしておつやの方については、信長の言として、「叔母ではあるが、裏切って強敵秋山の妻になった」という事で、「叔母をも、信長が成敗した」と記しています。

③岩村町に「大将陣」という地名が残っています。織田信忠が本陣を置いた所で、ここで秋山信友とおつやの方など5人が、逆磔にされたともいわれています。

その恨みで歴代城主に祟りがあったとか……。

信長の怒り、戦国の世のはかなさを偲ばせる話ではありませんか。

一方、甲府に人質に出された御坊丸＝織田勝長（信房）のその後は？

天正8年（1580）岐阜に帰され、織田の武将として武田との戦いに加わります。

父織田信長は、天正10年春武田を滅ぼしますが、6月2日、本能寺の変に斃れて

しまいます。勝長（信房）は、その時、京都二条御所に兄信忠と共に戦い、討ち死に

したという事です。この転変も、戦国の武人の逃れ得ぬ運命ではありまじょうが。

* * * *

ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

燦歩会では、入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、

毎月第4日曜日に歩いています。

メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

(切符や食事の予約が必要な例会も時々あります) 多くの方の参加をお待ちしています。

今後の予定は

2016年 11月 仁和寺 御室八十八カ所霊場巡り (京都)
12月 納 会

2017年 1月 岸和田城 きしき 岸城神社 初詣 (大阪)
2月 大和郡山 ひな祭り (奈良)
3月 タマ電車に乗って、あら川の桃花を観に (和歌山)

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。(0743-20-4159)

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(文・写真 中谷一夫、三好勝徳、小林一馬、生島幸弥)